



## 心のビタミン No.174



# 同行二人春遍路

暖かい春の日差しが嬉しいこの頃、お遍路さんによく出会う。白装束に包まれた一行が遍路道の峠・地蔵越を行く姿が美しい。新緑の木々と淡桃色の桜に溶け込み、まるで絵画のようだ。かわら版編集室の近隣、名東町に古墳と安産祈願で知られる地蔵院がある。

本寺は平安時代、空海が四国巡錫の折に女人の出産安産を願い、地蔵菩薩を安置したのが始まりという。江戸時代には徳島藩の庇護を受け、藩主蜂須賀家の安産祈願所に本尊は延命地蔵で、新四国曼荼羅霊場の第75番札所でもある。

弘法大師の教えは奥深く、信心が足りない私たちは簡単に理解できない。4月から就職した新人が仏教の教えを信じーんなどと言う場合が。では、助言を授けよう。深遠なお経の内容を絵に描いた「曼荼羅」がある。多く

の仏が規則正しく並び、聖なる空間や満ち足りた状態を意味する。じっくり観るとインスピレーションが得られるかも。人は誰もが悩み苦しむもので、八十八の煩惱があるという。特に現代の日本は物質的に豊かだが、精神的に何かが不足すると感じる人も多い。

今年は「四国八十八ヶ所霊場のご開創1200年」。阿波の23カ寺は発心の道場で、煩惱に打ち勝とうとする気持ちから始まる。大師さまと歩く「同行二人」を感じつつ、歩き遍路を試みてはいかがだろうか。

(医師・音楽家 板東浩)



地蔵院／かわら版編集室撮影